

総務省地域ICTクラブ 「三戸地方未来塾（仮称）」設立趣意書

青森県三戸地方においては、近年、少子・高齢化による社会構造の変化が顕著になると共に、基幹産業である第一次産業からの離職が進む一方でその受け皿となる雇用の場がなく、人口の減少傾向が進行しています。この対策として、若者の指向する未来型産業であるICT企業の誘致や起業が強く望まれているところです。

この度、平成30年度 総務省委託事業「地域におけるIoTの学び推進事業」への提案が採択されたことにより、「三戸地方未来塾（仮称 以下省略）」の協議会を組織し、自治体・教育機関・企業等と地域コミュニティが一体となってICT教育を全国に先駆けて実施できる運びとなりました。

事業提案の「三戸地方未来塾」は、理念や方針などを決議し塾全体を統括する協議会、活動全般を支援するサポーター会、児童生徒を中心とした塾生によるICTクラブの3部門により構成されています。

また、域内にICT関連企業が存在しない農山村型町村モデルの特長として、未来の姿を地域全体で体験できる「未来体験講座」と、「未来型スキル（プログラミング）」を楽しく学ぶことができる「ハイブリット型ICTクラブ」の提案は、児童生徒だけではなく地域全体のICT認知度を高め、地域のICT産業の基盤を構築する上でも有効であると思われれます。

この次世代への期待を担う「三戸地方未来塾」を発進させ、発展させるためには、自治体や教育機関、地域の皆様のご協力は勿論のこと、最先端のICT技術を有する企業の皆様のCSRによるご協力なしには実現できるものではありません。

また、昨年度から総務省の事業で活躍されている学校給食コンピュータ研究会の皆様の協力がなければ、指導者の養成は儘ならぬものと考えております。

以上を踏まえまして、総務省委託事業の実践と共に、三戸地方のICT教育レベルを向上させ、児童生徒のプログラミング・スキルを育成し、全国のICTクラブ設立のモデルケースとして貢献することを目標として、ここに「三戸地方未来塾」の設立をご提案いたします。

つきましては、皆様におかれましても、趣旨をご理解いただき、ご参加ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成30年7月吉日

青森県三戸町 町長 松尾 和彦